

せっかち 園長の ひといごと

2017、1、31

認定こども園あかみ幼稚園・メイプルキッズ 統括園長 中山昌樹

タイミングが遅くて拍子抜けですが、改めて・・・。
新しい年がスタートしましたね。今年も、改めて、どうぞよろしくお願いいたします。

職員たちとの新年会でも言ったのですが、今年は酉年（とりどし）です。しかも、60年に一度の「ひのと の 酉」だそうです。そしてこの酉年は、時間をかけてよく熟した果実を収穫する年・・・苦労して頑張った成果が自分のものとなる年、だそうです。

この新しい年が、子どもたち、そして皆さんにとって、実り多い年であることをお祈りします！



さてまずはじめの話題は、かっぱ・・・

先日、もり3組の子どもたちが5、6人、突然、職員室の私のところに、「えんちょうせんせい、ききたいことがある！」と、来ました。子どもたちは私を見つけると、もの凄い迫り方で近づいてきて、次から次にと質問してきました。

「たろう（太郎）さんちって、どこにあるの？」

「あかぶち（赤淵）って、どこなの？」・・・

*太郎さんというのは、卒園児のお父さんであり、巖華園（がんかえん、足利市）の中島家15代目の当主。地域の民話や伝説に詳しい「かっぱ博士」です。

赤淵は、佐野の小中町にある、かっぱの伝説地。



↑目印の「赤い橋」です。

私が見つ、説明しながら紙に地図を書きました。

「あかみ幼稚園の前の道を山の方へ行くと、トンネルがあり、トンネルを抜けてもっと行くと、池の手前に赤い橋があるので、その橋を渡ると、そこが太郎さんのいる家なんだよ。」・・・やり取りは続きます。

↓続く

子どもたち 「じゃあ、あかぶち（赤淵）は？」「あかいはし（赤い橋）のところなの？」

・・・赤淵と赤い橋が、混ざってしまったようです。

私 「赤淵は、太郎さんちと反対方向で、スイミングのSGCに行く途中の橋の近くなんだよ。」

子どもたち 「わたし、エス・ジー・シー（SGC）行ってるから、あかぶち（赤淵）、わかるかも。」

私 「でもなんで、太郎さんとか赤淵のことを訊きに来たの？」「赤淵のこと、知ってたの？」

子どもたち 「だって、リードットでみたもん。」

私 「そうなんだ。そう言えば、リードットにかっぱの絵（掛け軸）があるんだよね。」

子どもたち 「ぼくそれ、みた！」

国登録有形文化財の巖華園↓



その後子どもたちは、私が書いた地図を持って、クラスに飛んで帰っていきました。

このようなやり取りをめぐって私は、子どもって本当にかわいいなと思うし、子ども時代の今しか味わえないこのファンタジックな経験が、その後の彼らの人生で、どれだけ大切か！ と思うのです。

OECD（経済協力開発機構）は地球上の様々な国や地域で、幼児教育に関する様々な提言を行っています。

そして、最近明らかになった『**OECD2030**』の中では、3つの柱の一つとして「**持続可能性**」を掲げています。

これはまさに、本園の子どもたちが毎年夢中になる、「かっぱをめぐる冒険」そのものだと思うのです。以下ちょっとだけ、これを紹介します。

（先日1月16日に、私・中山が本園を代表して、文部科学省【幼児教育140周年】で発表した資料より）

自然生態系に関する持続可能性 【活動例】ファンタジーと環境教育の接点

子どもたちのかっぱをめぐるファンタジックな活動が、たまたま出会った地域の伝説との関わりにより、現実の環境問題につながった事例。

小学校就学前の子どもたちがリアルな環境問題に出会うためには、ファンタジー（例えば、かっぱ）がその入り口として必要なのだと気付かされました。



↑ビオトープを調べているところ

↓続く

そしてこれらの活動が、保護者の皆さんの理解と協力を土台にしつつ、地域のたくさんの方たち（太郎さんたち）と作ってきた“ネットワーク”の中で行われていること、そして結果として、子どもたちが教育上のメリットをたくさん手にしていることを、とてもうれしく思うのです。



←左は、私が理事を務める「全国認定こども園協会」が作成した、認定こども園の役割りと使命を表した図です。

（同じく、文部科学省【幼児教育140周年】での発表資料より）

よく認定こども園は、幼（幼稚園）と保（保育園）を併せたものだと言われますが、私たちは、確かにそうである部分はあるけれど、単純に幼と保を一緒にしたのが認定こども園だと考えていません。

この図にあるように、昭和の時代には子どもたちを育てくれた、（しかし今は壊れかけている）地域コミュニティを、認定こども園が拠点となって、作り直す（再生する）ことが求められている、と思うのです。

例え話になりますが、この地域コミュニティは、子どもが一人の大人になるための「生態系」だと言えます。植物や生き物だと「生態系」という

意味がイメージしやすいのですが、人・子どもにとっても地域コミュニティという「生態系」があるのだと思うのです。ですが、その「生態系」が壊れてしまったから（地域コミュニティが壊れてしまったから）、今、子どもが育ちにくくて、子育てがしにくい世の中になってしまっているのではないかと、私は考えています。

本園の園庭には、ビオトープがあります。これは、植物や生き物の「生態系」を再生するためのものです。そして、子どものための「生態系」である地域コミュニティを再生する拠点が求められている今、ここでもう一度例え話をすると、**認定こども園は子どものためのビオトープ**ですね。

植物や生き物のビオトープで大切にされるのは「生物多様性」。子どものためのビオトープである本園では、『遊び保育』を中心に、子どもたちや保護者の皆さん、そして職員たちの、多様な個性が大切にされたいと思います。

次に、先日終わった工事について・・・

すでに終了した「事務スペース」の改修について、報告です。

幼稚園だったころと比べて、認定こども園になった今の事務量は、何倍も多くなりました。とくに市役所とのやり取りは増えましたね。そのため段階的に、事務職員の人数を増員してきましたが、今まで事務専用のスペースがなかったこともあり、3・4・5歳の保育者たちが職員室に戻る時間以降は、事務職員と保育者たちがパソコンをめぐる入り混じり、仕事の効率が悪くなっている現状がありました。

そこで、仕事のしやすさを向上させるため、旧職員室玄関を改修し事務専用のスペースを作りました。



←事務スペースの内部。



←外から見たところ（旧職員室玄関）。

丸いオブジェは、アレキサンダー・ジラルドがデザインした太陽です（復刻版ですが）。

ニコリと子どもたちを見守ってくれています。

これにともなって、玄関が北側の「みのが」の入り口になりました。職員室の東窓は、今まで通り、職員とのやり取りで使っていただけますが、入り口が「みのが」一か所になったことで、しばらく慣れるまで戸惑う方がいらっしゃるかもしれません。上でお伝えしたような、事務専用スペース確保という事情を、どうぞご理解ください。

最後に、働き方改革・・・

最近のチャレンジとして、「ノー残業ウィーク」に取り組んでいます。なくせることはなくし、変えられることは変えて、・・・保育者たちについて言えば、そこで生まれた余裕やパワーを、子どもたちや保育のために使おう！ という主旨です。保護者の皆さんにとっても、職員がより元気に、より笑顔で子どもたちに接している方が、うれしいですね。本園のささやかな働き方改革ですが、皆さんが応援して下さいましたら、うれしいです。